

■近藤重蔵(守重・正斎) 幕臣、北方探検家。択捉に日本領標柱立てるなど蝦夷地防衛尽力、栄転するも現場離れ失意。

こんどうじゅうぞう

御蔭参流行・1771＝ 江戸駒込で、幕府御家人の先手鉄砲組与力の次男に生まれる。

田沼意次老中1772＝ 1歳：

ワシ船蝦夷来 1778＝ 7歳：「孝経」を誦んじて神童と言われる。

・・・・・・ 1780＝ 9歳：

幼い頃から穎悟で学問好きで、井上金峨や山本北山について学び、

拔群の才能と異常なほどの功名心から、

田沼意次失脚1786＝15歳：

寛政改革始・1787＝16歳：同志とともに{白山義学}を開き、幕臣や大名子弟の教育を始める。

初の横綱・・・1789＝18歳：先手与力見習を経て、

異学の禁・・・1790＝19歳：家督を継いで、先手与力となる。

混浴禁止・・・1791＝20歳：早くも勲功を挙げ、白銀を賜り10人加増。

松平定信引退1793＝22歳：

ワシガ 正月・1794＝23歳：湯島聖堂の学問吟味で全科目に応試して優秀な成績を収めて、注目され、

写楽・・・1795＝24歳：長崎奉行出役の機会を与えられ、海外知識を深め、

「清俗記聞」「安南紀略」「紅毛書」等を著す。

昌平饗始・・・1797＝26歳：支配勘定に転じ関東郡代付役となった後、知己を通じて蝦夷地警衛の重要性を幕府に建言、

古事記伝・・・1798＝27歳：「憲教類典」著述。*松前蝦夷地御用取扱に抜擢され、最上徳内ら経験者を率いて、千島を調査、エトロフ島でロシアの標柱を廃し、「大日本恵土呂府」の木標を立てて、

蝦夷地直轄始1799＝28歳：帰府。東蝦夷地仮上知になって設けられた蝦夷地御用掛に属して、クナシリ島、エトロフ島の経営に従事、高田屋嘉兵衛の協力を得て、エトロフ航路を開き、

伊能測量始・1800＝29歳：エトロフ島に漁場17ヶ所を開設、通詞2人、番人、稼ぎ方50人を置くなど、開発を本格化して、帰府。

宣長没・・・1801＝30歳：第三次蝦夷地探検し、帰府。蝦夷地御用専任を命じられる。

一九膝栗毛始1802＝31歳：第四次と続け、エトロフのアイヌの幕府への帰属を図り、ロシア南下に対する北辺の防備・開拓に尽力。

アヲカ船来航始1803＝32歳：小普請方を命じられる。

イダノ来航・1804＝33歳：西蝦夷地の処分・取締について建議し、「辺要分界図考」を著す。

青洲麻酔手術1805＝34歳：長子富蔵が誕生。

ワシ船狼藉・1807＝36歳：西蝦夷地探検に出、利尻島・石狩奥地を廻って帰府。*将軍家斎の単独謁見を許され、

フェートン号事件 1808＝37歳：*幕府の北方対策への意識が減じて、書物奉行へ抜擢された。栄転であるにも拘わらず不満で、やがて書庫運営の改善、文庫内の資料を使った編纂、自分の編著書の幕府への献上などに生き甲斐を見出し、

・・・・・・ 1810＝39歳：「金銀図録」「宝貨通考」、この間精力的に和漢古書の書誌学的研究を深め、

浮世床・・・1813＝42歳：「外蕃通書」十卷、

「好書故事」「論語考」「管子考」「金沢文庫考」「足利学校考」など、_1500巻余の広範かつ膨大な著書を著し、自宅に滝野川文庫を設けた。

伊能測量終・1816＝45歳：

杉田玄白没・1817＝46歳：紅葉山文庫蔵書の性質や来歴を明らかにし、その改修について上申。

水野忠成老中1818＝47歳：

一方、_他の役職への転出を何度も働きかけたが、結果として、

群書類従完結1819＝48歳：*大坂弓奉行に左遷されると、

_大塩平八郎と親交するなどして、なかなか職につかず、

伊能図完成・1821＝50歳：_“勤方不相応”という理由で普請入・差控を命じられ、滝野川に塾居。

英船浦賀来航1822＝51歳：金沢文庫再興を企て「金沢文庫考」を著す。石像安置事件起こる。

異国船打払令1825＝54歳：鎗が崎別荘問題がこじれ、塚越半之助が重蔵に無礼を働いたため、

・・・・・・ 1826＝55歳：_長男富蔵が半之助一家殺傷事件を起こして八丈島流罪、重蔵も連座して近江大溝藩お預けとなり、

シボト追放・1829＝58歳：_そこで没した。